第 2 回 蒲郡市 緑の基本計画策定委員会 会議録

開催日時	令和 6 年 7 月 19 日 (金) 午前 10 時から正午まで																																																									
開催場所	蒲郡市役所 本館 3 階 305 会議室																																																									
出席者	<p>【委員】</p> <table border="0"> <tr> <td>豊橋技術科学大学</td> <td>特別顧問・名誉教授</td> <td>大貝 彰</td> </tr> <tr> <td>東三河地域研究センター</td> <td>常務理事・調査研究室長</td> <td>高橋 大輔</td> </tr> <tr> <td>蒲郡商工会議所</td> <td>専務理事・事務局長</td> <td>山下 英考</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市農業委員会</td> <td>委員</td> <td>荒島 祐子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡造園業協同組合</td> <td>理事長</td> <td>市川 幸樹</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市総代連合会</td> <td>副会長・町部総代会長</td> <td>細井 政雄</td> </tr> <tr> <td>地域学校協働活動推進員</td> <td></td> <td>早川 康子</td> </tr> <tr> <td>がまごおり市民まちづくりセンター</td> <td></td> <td>志村 昭彦</td> </tr> <tr> <td>未来塾</td> <td>会員</td> <td>西川 和宏</td> </tr> <tr> <td>蒲郡山友会</td> <td>会員</td> <td>牧原 鉄男</td> </tr> <tr> <td>いきいきサロン王子</td> <td>代表</td> <td>高柳 幸枝</td> </tr> <tr> <td>蒲郡地域の茶の間の会</td> <td>会長</td> <td>石川 たづ子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市都市開発部</td> <td>部長</td> <td>嶋田 丈裕</td> </tr> </table> <p>【オブザーバー】</p> <table border="0"> <tr> <td>愛知県公園緑地課</td> <td>担当課長 (代理主席)</td> <td>清水 康弘</td> </tr> <tr> <td>愛知県東三河建設事務所</td> <td>都市施設整備課長</td> <td>岩田 勝則</td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table border="0"> <tr> <td>都市開発部都市計画課</td> <td>課長</td> <td>鷹巣 央佳</td> </tr> <tr> <td></td> <td>課長補佐</td> <td>壁谷 健司</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主査</td> <td>森 あゆみ</td> </tr> </table> <p>【委託業者】</p> <table border="0"> <tr> <td>株式会社パスコ</td> <td>2 名</td> <td></td> </tr> </table>	豊橋技術科学大学	特別顧問・名誉教授	大貝 彰	東三河地域研究センター	常務理事・調査研究室長	高橋 大輔	蒲郡商工会議所	専務理事・事務局長	山下 英考	蒲郡市農業委員会	委員	荒島 祐子	蒲郡造園業協同組合	理事長	市川 幸樹	蒲郡市総代連合会	副会長・町部総代会長	細井 政雄	地域学校協働活動推進員		早川 康子	がまごおり市民まちづくりセンター		志村 昭彦	未来塾	会員	西川 和宏	蒲郡山友会	会員	牧原 鉄男	いきいきサロン王子	代表	高柳 幸枝	蒲郡地域の茶の間の会	会長	石川 たづ子	蒲郡市都市開発部	部長	嶋田 丈裕	愛知県公園緑地課	担当課長 (代理主席)	清水 康弘	愛知県東三河建設事務所	都市施設整備課長	岩田 勝則	都市開発部都市計画課	課長	鷹巣 央佳		課長補佐	壁谷 健司		主査	森 あゆみ	株式会社パスコ	2 名	
豊橋技術科学大学	特別顧問・名誉教授	大貝 彰																																																								
東三河地域研究センター	常務理事・調査研究室長	高橋 大輔																																																								
蒲郡商工会議所	専務理事・事務局長	山下 英考																																																								
蒲郡市農業委員会	委員	荒島 祐子																																																								
蒲郡造園業協同組合	理事長	市川 幸樹																																																								
蒲郡市総代連合会	副会長・町部総代会長	細井 政雄																																																								
地域学校協働活動推進員		早川 康子																																																								
がまごおり市民まちづくりセンター		志村 昭彦																																																								
未来塾	会員	西川 和宏																																																								
蒲郡山友会	会員	牧原 鉄男																																																								
いきいきサロン王子	代表	高柳 幸枝																																																								
蒲郡地域の茶の間の会	会長	石川 たづ子																																																								
蒲郡市都市開発部	部長	嶋田 丈裕																																																								
愛知県公園緑地課	担当課長 (代理主席)	清水 康弘																																																								
愛知県東三河建設事務所	都市施設整備課長	岩田 勝則																																																								
都市開発部都市計画課	課長	鷹巣 央佳																																																								
	課長補佐	壁谷 健司																																																								
	主査	森 あゆみ																																																								
株式会社パスコ	2 名																																																									
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民アンケート調査の結果について 2. 緑の分析・評価について 3. 緑づくりの課題について 																																																									
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 令和 5 年度策定委員会の概要 (資料 第 1 回策定委員会) ・ 蒲郡市の公園や緑に関するアンケート調査 集計結果 (資料 1) ・ 蒲郡市の緑の分析・評価 (資料 2) 																																																									

	・緑に関する課題（資料3）
会議内容	
<p>1. 開会</p> <p>(1) 都市計画課長挨拶</p> <p>(2) 資料確認</p> <p>2. 令和5年度策定委員会の概要（確認事項1）</p> <p>資料 第1回策定委員会に基づき、事務局より令和5年度の策定委員会の概要について説明した。</p> <p>3. 市民アンケート調査の結果について（議題1）</p> <p>(1) 議題説明</p> <p>資料1に基づき、事務局より市民アンケート調査の結果について説明した。</p> <p>(2) 意見交換（発言順）</p> <p>A 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果では利用頻度の低下が明らかになっているが、利用者が多いと感じる水竹公園のような、子ども向けの遊具と大人向けの施設が配置された新しい形の公園に整備すれば利用が増えるのではないかとと思われる。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水竹公園は整備の際に地域住民とのワークショップを実施して整備した新しい公園で、周辺住民に若い世代が多いこともあり、にぎわっていると思われる。一方で整備から時間が経過した公園は遊具が古い・施設が未更新等で魅力が低下しているため、アンケート調査結果に表れていると考えられ、既存の公園のブラッシュアップ等の魅力向上が課題である。 <p>B 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲郡公民館周辺の児童遊園地は薄暗く、桜が高齢化しているため危険に感じている。将来的に公民館の合併に合わせて駐車場を整備してもよいと思われる。 ・本町の公園で昨年度まで清掃活動を行っていたが、活動メンバーの高齢化のために活動を休止しており、この公園の今後が気になっている。整備から時間が経過した公園の維持管理と適正化について見直しが必要と考えている。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童遊園地は児童福祉法に基づく公園で市内に多く設置されているが、他の公園よりも管理が行き届いていない状況である。状況を庁内で共有して維持管理を推進したいと考えている。 	

- ・アンケート調査結果では緑を残したり、増やしたりする活動への関心はあるが、参加意向が低い状況であるため、今後の維持管理が課題であると考えている。
- ・公園に見直しについては、主に安全の観点から都市公園の遊具の入替を取り組んでいるところである。遊具の入替と合わせて公園全体のリニューアルを行うことや、利用頻度の高い大規模な公園から進めることが有効と考えている。

C 委員

- ・策定する緑の基本計画は 10 年後を目標とした計画であるが、公園の維持管理費用も踏まえた計画とすることが重要と思われる。
- ・策定委員会の場に児童遊園地の担当部署も同席する方が良いのではないか。
- ・事前に資料配布があると資料を読み込んだ上で議論ができるため、要望する。

事務局

- ・児童遊園地の担当部署の出席については難しいため、本委員会での意見を庁内共有して対処するようにしたい。
- ・配布資料については次回以降は事前配布できるよう改善したい。

D 委員

- ・アンケート調査結果から 30 歳代・40 歳代の子育て世代、及び 60 歳代の利用が多いと読み取れる。利用者のニーズに応じた公園整備が重要と考えるため、年代別の状況を確認した上で施策を考えてほしい。

事務局

- ・利用者ニーズに応じた公園整備は重要だと考えるため、今後の参考としたい。

会長

- ・このアンケート調査結果から蒲都市の特徴はあるか。(オブザーバーへの確認)
- ・緑に関心のある住民が平成 22 年と比較して減少しているが、これに対する解釈はどのようなものであるか。(事務局への確認)

オブザーバー

- ・他市町村との比較は難しいが、緑に関心のある住民が比較的多い印象であるため、関心のある住民をいかに取り込むかが重要と考える。

事務局

- ・平成 22 年の調査時は、COP10 が愛知県で開催された時期と重なるため、住民の環境への意識が高い状況であったためと考えられる。

4. 緑の分析・評価について（議題 2）

(1) 議題説明

資料 2 に基づき、事務局より緑の分析・評価について説明した。

(2) 意見交換（発言順）

C 委員

- ・ 資料 17 頁に示されている緑を守るボランティアの育成とは具体的にどのようなものか。また、資料 13 頁に示されている蒲郡市公共施設里親制度（アダプトプログラム）の団体数・会員数の令和 5 年の現況の 40 団体・会員 883 人のうち、実際に活動されている割合はどの程度か。

事務局

- ・ 育成については制度紹介レベルであり、積極的にアクションを起こしているわけではない。また、活動団体の実態については、具体的な数値は把握していないが、ここ数年は活動機会が減っているように感じている。会員の高齢化により参加人数は減っているが、新規で若い年齢の会員の加入が無いように感じている。

E 委員

- ・ 市役所前通の管理をボランティアで実施しており、活動を広げたいと考えているが、市からの呼びかけ等をお願いできないか。
- ・ 蒲郡市の銘木 50 選に選ばれた樹木について、地域で樹木の剪定等の管理に費用が発生している状況であるが、市からの補助等はないのか。

事務局

- ・ ボランティアの呼びかけについては、道路担当部署と連携しながら、計画書への反映を検討したい。
- ・ 銘木への補助等は難しい状況であるが、庁内で情報共有し、対応を検討する。

F 委員

- ・ 資料 6 頁に街路樹が災害時に倒壊家屋の支えとなるとあるが、街路樹自体が倒れる等の悪影響となるイメージがある。
- ・ 資料 8 頁で景観を形成する緑としてラグーナ蒲郡が示されているが、周辺道路は雑草が繁茂しており、景観上の課題と感じている。
- ・ 資料 12 頁に中学生向けのアンケート調査は令和 5 年に実施していないとあるが、中学生こそ小学生のころによく公園を利用しており意見が出やすい世代と考えるため、なぜ実施しなかったのか疑問に感じる。
- ・ 施策として小学校のビオトープが示されているが、ビオトープが活用されているイメージがなく、廃止されている学校が多いと感じている。また、学校の樹木について、予算面等から樹木を減らす方向にあるが、市長の方針が子育てファーストであり、かつ今後の人口減少を考えると若い世代を呼び込むことが重要と考えているところ、学校に緑が少なく、放課後に遊

ぶ公園も少ないなど、政策に一貫性がないと感じている。

事務局

- ・災害時の街路樹の機能については一般論を示したが、市内の実情として倒壊家屋の支えとなるような街路樹がないと思われるため、内容を再検討したい。
- ・ラグーナ周辺については愛知県への要望等を行いながら対処したい。
- ・ビオトープについて、現行計画策定時は環境に関する意識が高いためによく設置されていた状況である。蒲郡市ではビオトープと同様の環境が周辺に存在するため学校内に設置する必要性が低いかもしれないが、環境学習には引き続き取り組んでいく必要があると考えている。また、学校の樹木についても費用面とのバランスを考えながら検討したい。

5. 緑づくりの課題について（議題 3）

(1) 議題説明

資料 3 に基づき、事務局より緑づくりの課題について説明した。

(2) 意見交換（発言順）

B 委員

- ・資料 5 頁の環境学習等について、三谷地区の小学校は三河大島の環境学習等を行っていると思うが、三河大島は蒲郡市のシンボルであるため、蒲郡市の全地区で義務教育のうちに少なくとも 1 回は環境学習やボランティア活動を行うようにしてほしい。

事務局

- ・いただいた意見を計画書に示す施策として検討したい。

C 委員

- ・上位計画の総合計画では目標人口を減らしている。緑の基本計画においても、アダプトプログラムの参加人数や緑の面積等の目標設定において将来人口を考慮する必要があると思うが、どのように考えているか。

事務局

- ・実行性のある計画にしていく必要があると考えているため、事業を実施する担当部署と調整し、理想と現実のバランスを取りながら計画としてとりまとめたい。

会長

- ・理想と現実のバランスが難しいが、都市経営の観点から考えることが重要であるため、人口減少や財政面から都市のマネジメントをどうしていくかの視点から緑の基本計画も考える必要があると感じる。
- ・緑を増やすにしても、管理が追い付かない状況が全国的に発生しているため、そういった現実も踏まえて計画を検討してもらいたい。

事務局

- ・ 蒲郡市は素晴らしい景観や緑があり、残していくことが重要であるため、山だけでなく農地や市街地内の銘木も含めて保全していけるような計画としてまとめたい。

D 委員

- ・ 脱炭素社会に緑がどのように貢献するかといった視点が少し触れると良いと考える。
- ・ 全国的に丘陵地でソーラー発電パネルの設置が進むことで緑が減少する状況や、農地におけるソーラーシェアリング等、これらの蒲郡市の状況と今後の検討が必要と考える。

事務局

- ・ 脱炭素社会に関しては一自治体で取り組めることには限界があると感じているため、コラムとして紹介する等、計画書になんらかの形で触れるようにしたい。

6. 閉会

本委員会の意見を踏まえ、事務局は引き続き、計画策定の作業を進めることとした。

以上